

令和7年度「船上山スキルアップセミナー①（体験編）」実施報告書

I 事業の概要

1 期日 令和7年5月31日(土)～6月1日(日)



2 日程

5月31日(土)		6月1日(日)	
10:00	受付開始	6:30	起床
10:30	出会いのつどい・オリエンテーション	7:00	朝のつどい
11:15	アイスブレイク	7:20	そうじ
12:00	昼食	8:00	朝食
13:00	主催事業紹介	8:45	退所点検
13:30	レクリエーション研修	9:00	野外イニシアティブゲーム研修
15:00	室内イニシアティブゲーム研修	10:00	野外炊飯(カレーライス)説明
16:30	サポーター役割決め・休憩	10:30	調理開始
17:30	夕食	13:15	片付け完了
18:30	ロールプレイ(子ども達との関わり方について)	13:30	振り返り
20:30	情報交換会	14:30	解散・出発
21:30	入浴		
22:30	消灯		

3 ねらい

- ・船上山少年自然の家の仲間づくりレクリエーションやフィールドでの活動を体験したりして、主催事業でのサポーターの活動について知る。
- ・グループでの体験活動を通して、参加者同士の親睦を深める。



4 参加者数

スキルアップセミナー①(体験編)20名(島根大学15名、鳥取大学5名)



II 実施状況

初参加13名を含む総勢20名の大学生が参加してのスキルアップセミナー

① (体験編)となった。

今回は主に本施設の主催事業で行うことの多い様々なレクリエーションを学ぶことを主眼に置いた企画とした。ちっちゃい探検隊などでアイスブレイクをはじめ多くのレクリエーションを行っているが、ぜひ学生サポーターにも体験することはもちろん、前に出て実際にレクリエーションの進行を行って欲しいと考えたからである。



レクリエーション研修では、まず指導員がいくつかレクリエーションを行った後、学生にも前で進行役をやってみようと呼びかけた。

最初はなかなか手を挙げる学生がいなかったが、場の空気が和むにつれ少しずつチャレンジする姿が見られ、半数近い学生がレクリエーションの進行役を体験することができた。

夜は、ちっちゃい探検隊で予想される子どもの対応について、各班でテーマを決め、役割演技を行った。各班の発表を見た後、自分の意見をホワイトボードに書き、考えを共有し合うなど、充実した時間となった。



2日目も、ちっちゃい探検隊で行う予定である野外イニシアティブゲーム（協力型ゲーム）と野外炊飯（カレーライス作り）を行った。どちらも実際に経験することで、子どもたちにどのような声かけを行ったらよいか、イメージを膨らませながら活動する姿が見られた。

スキルアップセミナー①（体験編）に参加した学生のうち、ちっちゃい探検隊（夏の特別企画）に参加する学生が8名あった。短時間ではあるが、ちっちゃい探検隊のコンセプトや企画内容を確認することができた。学生からも前向きな感想が聞かれ、ちっちゃい探検隊やスキルアップセミナー②（企画編）につながるセミナーになったと感じた。



Ⅲ 総括

1 参加者の感想（抜粋）

- ・初めての船上山のボランティアは予想以上にとても楽しいものだった。最初、他の大学の勢いについていけず、不安な部分もあったが自己紹介のころからとても温かい雰囲気が伝わり、更に仲が深まったように思う。また、私は保育士を志しているが、道具がなくとも子どもを引き付ける方法をたくさん知ることができた。今後も、多くのボランティア活動に参加したいと思った。
- ・レクリエーション研修で他の人の考えたレクの方法を見たり、それ以外の活動のイニシアティブゲームやカレー作りでも他の人たちの素敵な姿を見たりして、自分もそのような良いところをどんどん盗んでいこうと思った。特にロールプレイでは、実際に直面したことのある状況ばかりだったので、すごく深く考えながら自分の意見を言ったり、人の意見を聞いたりすることができた。1年前のスキルアップセミナー①よりも質の高い学びを獲得することができたと思う。

2 成果

- ・今回はちっちゃい探検隊（夏の特別企画）を想定して、レクリエーションやイニシアティブゲームなどの研修や野外炊飯（カレーライス作り）を行った。特にレクリエーション研修では、見て学ぶ（インプット）だけでなく、半数近い学生が前に出て、実際にレクリエーションを行う（アウトプット）ことができた。
- ・夜の座学では、ちっちゃい探検隊で想定される子どもとの関わり方について、役割演技を交えながら、グループ内でそれぞれの考えを出し合った。他の学生の意見を聞くことで自分には無い視点を得ることができ、子ども理解が深まったという感想をいただいた。
- ・情報交換会では、学生たちとお菓子をつまみながら和やかな雰囲気の中で本主催事業の参加動機を聞く機会を設けた。学生それぞれの背景を知ることができ、学生と職員の距離を縮めることができた。

3 課題

- ・初めて出会う学生もいた中で、前に立ってレクリエーションをすることは少しハードルが高かったようだ。まずは、グループ内で練習したり、同じ班の人からアドバイスをもらったりした後に全体の場で発表、という流れの方が良かった。